

「三郷特別支援学校の活性化・特色化方針」

種別	知的障害	学部・学科	小学部・中学部・高等部	R7.5.1 児童・生徒数	(小) 144 (中) 83 (高) 123	計 350 名
アクセス	JR 武蔵野線「新三郷駅」より徒歩 2 5 分					
＜教育課程等＞						
・障害特性や一人一人の実態を踏まえた教育内容 ・高等部は生徒の実態や課題に合わせて教育課程を 3 つに分け、一人一人に応じた学習を行っている。 (教育課程 A、教育課程 B、重複学級) ・キャリア教育を基盤に小学部から高等部までの 1 2 年間を見通した教育に取り組む。						
＜学校行事・部活動＞						
・全校で取り組む行事には、入学式、三陽祭（文化祭）、卒業式がある。令和 7 年度は、小学部・中学部運動会は学校グラウンドで実施し、高等部体育祭を外部施設の陸上競技場で実施する。 ・各学年で実施する校外学習は、社会体験学習、遠足、集団宿泊学習、修学旅行等がある。 ・高等部は水曜日に部活動（運動部 5、文化部 4）があり、球技部が中心となって県主催の陸上大会、サッカー大会、バスケットボール大会に出場している。						
＜家庭・地域との連携＞						
・学校公開を年 2 回実施。 ・希望する小学部、中学部、児童生徒に対して、支援籍学習を実施。 ・就学や転学を希望する方々に対して、学校見学会を小学部 3 回、中学部 2 回、高等部 3 回（うち 2 回は入学選考説明会を兼ねる）の計 8 回実施。また、令和 6 年度から、就学転学を検討している方対象の個別相談会を実施する。 ・センター的機能の一環として、小中高等学校等への支援や相談、研修等を行っている。 ・コミュニティスクールとして、地域のイベントに参加（予定）。 ・令和 6 年度開校の三郷北分校との行事を中心とした交流を実施している。 ・小学部、中学部は近隣の小学校・中学校との交流会を行っている。 ・高等部では、三郷高校と本校での交流会を行っている。 ・高等部では、作業班交流として、杉戸農業高校と農耕班の交流会を実施している。 ・地域の方々にボランティア登録をしていただき、ボランティア活動をしている。						
＜進路＞						
・児童生徒一人一人の能力を把握し、適性を見極め、個々のもつ可能性を引き出していくことにより、社会的自立を目指している。日々の学習では、教科学習や作業学習を行い、その実現に向けて取り組んでいる。また、1 年次には施設見学を実施し、各学年では、校内・現場実習等に取り組んでいる。 【企業就労】 サービス業（小売、飲食）、運輸業（倉庫内作業、ピッキング）等 【福祉的就労】 三郷市・八潮市・吉川市の福祉施設等に就労						

2 育成方針（児童生徒の成長物語）三郷特別支援学校

学校教育目標「心豊かに学び 主体的に生きる力を育てる」



【めざす学校像】

「仲間を認め合い、絆を深めながら楽しく学べる学校」

「家庭や地域と連携し、豊かな体験を通して一人一人が自ら学べる学校」

「共生社会の実現を目指し、地域のセンターとしての役割を果たす学校」

意欲を育む学校行事
体育祭 三陽祭



小学部の目標

元気に遊ぼう
楽しく学ぼう
仲間とともに育ち合おう

- 元気な体をつくる
- 興味・関心を持つ
- 意欲的に学ぶ
- 豊かな人との関わり
- 最後まで努力する

中学部の目標

自分の思いや願いを伝え、
友達と共に活動し、
学校生活を楽しもう

- 基本的生活習慣の確立
- 健康で丈夫な体づくり
- 集団活動での学び合い
- 気持ちの表現
- 意思決定する力

高等部の目標

豊かな人間関係を築き、
生活を切り拓く力を育てる

- 目標をもち意欲的に取り組む力
- 人との関わりを広げる力
- 地域社会に参加する行動力
- 仲間と協力し成し遂げる力
- 最後までやりぬく力
- 学ぶ意欲を高める力
- 経験を増やし生活を高める力

キャリア教育の観点に基づき、
小学部からの12年間を見据えた系統性・計画性な学習

授業が楽しい
三郷が楽しい
学校が楽しい



本校スクールキャラクター
みさとちゃん

地域の一員として
笑顔で
主体的に
生きる力

自己実現を図る進路指導 校内実習・現場実習の充実

- 高1は2・3学期に校内実習を行い、3学期は現場実習を行う生徒もいます。
- 高2・高3では、個々の特性や適性を見極めながら、校内実習と現場実習を期間外にも必要に応じて行います。



☆ 個に応じた指導・支援をきめ細かく行っています ☆

- 個別的教育支援計画（教育支援プランA）、個別の指導計画（教育支援プランB）を本人・保護者のニーズを踏まえ作成します。
- 計画にもとづき丁寧に指導・支援します。
- 児童生徒の成長の様子（目標を達成したか）を評価します。
- 成長の様子（評価）を保護者に丁寧に伝えます。
- 指導と評価を一体化し、授業を改善し指導をさらに充実させます。

一人一人の教育的ニーズや
障害特性を踏まえた指導

臨床心理士、作業療法士等の専門家の指導を活用

